

形は違っても意味は同じ

てん ぼう
、やノ一つで、意味が大変違うものがある反面、形は大変違っているが、意味は全く同じものがあります。これらも、まとめて記憶しておきますと便利です。

たとえば、人の意味を表わす部首に、“人”“𠤎”“尸”“儿”“匕”“イ”など、いろいろあります。

“見”は人と目の会意字で、人は目で物を“みる”ということで“みる”意味を表わしたものです。“見”は兒の略字で、臼は頭の象形です。頭の大い“幼児”を表わしたものです。

“比”は、人が二人並んだ形で、“ならぶ”意味と“くらべる”意味に使われることは、すでに述べました。これと似た“北”は、人が二人、背中合わせに並んでいる形です。それで“背”という意味を表わした会意字です。

この字は、後に、方角の“きた”を表わすようになりしたので、区別するために、“せ”の意味の“北”には“月(肉月)”を加えて“背”としたものです。

“北”がなぜ“きた”の意味になったかと言いますと、人は、太陽のある南の方が好きで、そちらに向かたがります。すると、背の方は“きた”になりますので、背の意味の北という字で“きた”の方角を表わすことにしたので。

また、手の意味の部首に、“扌”“ナ”“又”“𠂇”“ヨ”などがあります。

“右”は、食べ物を食べる時、口に運ぶ手という意味で作られた会意字です。“左”は線を引く時、定規(工)を持つ手です。“友”は手と手が組み合わせられた形ですから、仲の良い“ともだち”を表わした会意字です。

“雪”は、手の上に載るようになった雨、という意味の会意字です。雨が手の上に載るようになったら、それは雨が“ゆき”になったからです。

このように、部首を理解すると、漢字の意味がよくわかり、覚えやすく、忘れにくいことがわかって頂けると思います。このような漢字学習法を、体系的・論理的学習法と言います。幼児期を過ぎたら、このような学習法で漢字を学習しなければ、苦勞ばかり多くて効果がありません。それには一四八ページで紹介した両書をおすすめしたいと思います。